

地震防災技術普及小委員会の活動報告

地震工学委員会 2025年度 第1回研究会

2025.4.23

渡辺 和明

小委員会の概要



- 発 足：平成8年11月～（今年で29年目の活動）
- 委員構成：委員30名，顧問2名（2025年4月時点）

	氏名	勤務先名称		氏名	勤務先名称
委員長	渡辺 和明	大成建設(株)			
副委員長	大竹 省吾	(株)オリエンタルコンサルタンツ			
幹事長	坂井 康伸	清水建設(株)			
副幹事長	山口 直也	(株)エイト 日本技術開発			
	氏名	勤務先名称		氏名	勤務先名称
WG1主査・幹事	黒田 武大	鹿島建設(株)	WG2主査・幹事	芳賀 堯	パシフィックコンサルタンツ(株)
WG1副主査・幹事	倉橋 奨	愛知工業大学	WG2副主査・幹事	佐々木 智大	(株)大林組
委員	池田 隆明	長岡技術科学大学	委員	青地 知也	(株)開発工営社
	栗林 健太郎	(株)エイト 日本技術開発		指田 朝久	東京海上ディーアール(株)
	穴倉 佳浩	大成建設(株)		佐藤 京	寒地土木研究所
	久末 賢一	(株)大林組		橋本 隆雄	国土館大学
	福武 毅芳	(株)大崎総合研究所		濱野 雅裕	(株)エイト 日本技術開発
	和田 一範	(公財) 鉄道総合技術研究所			
	氏名	勤務先名称		氏名	勤務先名称
WG3主査・幹事	眞野 基大	(株)エイト 日本技術開発	WG4主査・幹事	中村 晋	日本大学
WG3副主査・幹事	外木場 康将	(株)奥村組	WG4副主査・幹事	石丸 真	電力中央研究所
委員	梅林 福太郎	(株)オリエンタルコンサルタンツ	委員	大矢 陽介	海上・港湾・航空技術研究所
	工藤 浩史	(株)ドーコン			
	鎌田 泰子	神戸大学			
	佐藤 清隆	—			
	中山 学	—			
	樋口 俊一	(株)大林組			
	氏名	勤務先名称		氏名	勤務先名称
			顧問	木全 宏之	高圧ガス保安協会
			顧問	後藤 洋三	—



● 小委員会の活動目的

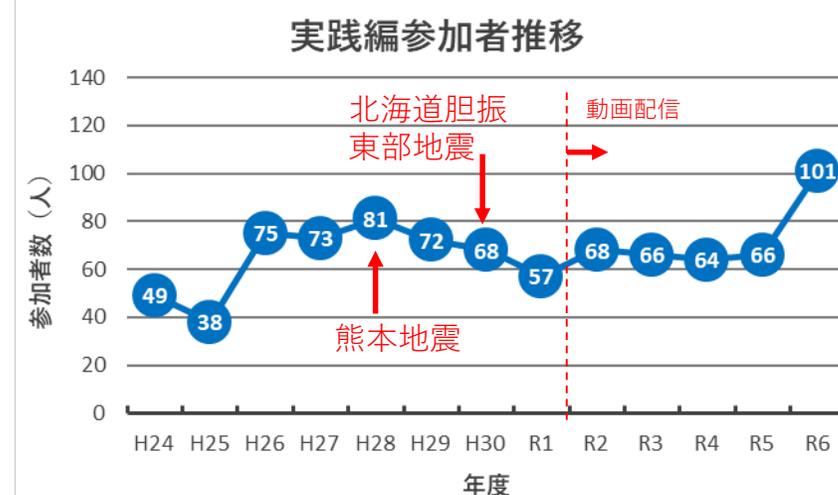
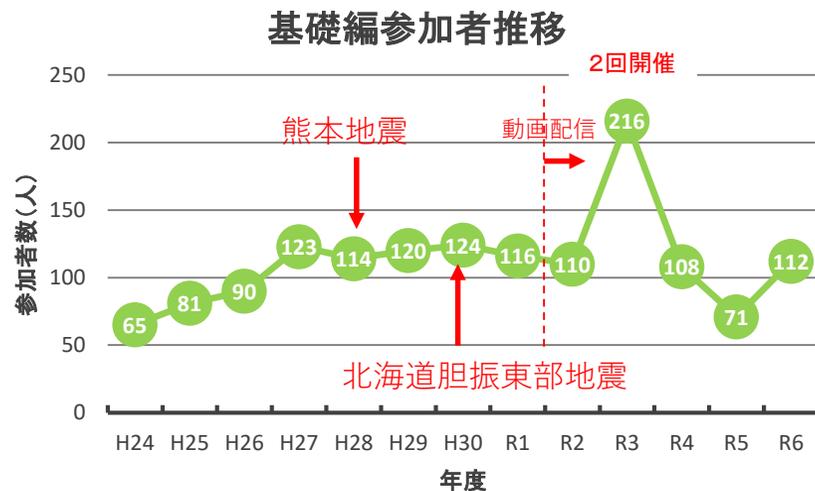
社会基盤施設の耐震性向上および地震防災性に優れた社会建設のために必要な知識・知見・思想，および調査・研究成果など地震防災技術を，土木学会会員を中心に広く普及させ，地震災害の軽減に貢献する

● 主要な活動内容(行事など)

- ・ WG 1 : 耐震設計入門セミナーほか
- ・ WG 2 : 地震災害マネジメントセミナー
- ・ WG 3 : 地震防災技術懇話会，被災地視察会
- ・ WG 4 : 地盤・構造物の非線形解析法のV & Vセミナーの開催
(セミナーは**2024**年度で終了)
- ・ 出版活動



- 発足当時から継続実施している当小委員会の看板行事
- 平成19年度より、「基礎編」、「実践編」の2本立てで実施
 - ・ 基礎編：耐震設計業務経験の比較的浅い人向け
 - ・ 実践編：実務経験5年程度以上の人向け
- 令和5年度以降は、現地参加＋Webのハイブリッド開催に加え、講義内容のVimeoによる映像配信も実施

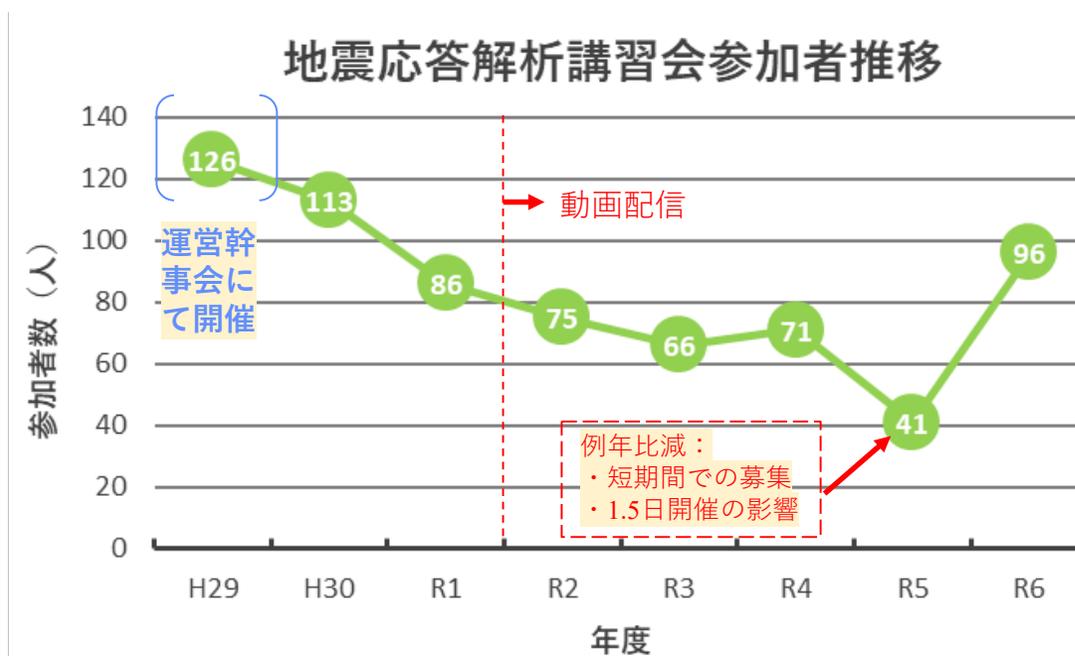


- 基礎編は，講堂が満席相当(120名)に近い参加状況．実践編も安定して70名前後の参加者
- 令和6年度は，能登半島地震の影響で基礎編，実践編とも参加者増
- Web配信は，特に初級者・遠隔地からの出席者に好評

WG1:「地盤の地震応答解析」の講習会



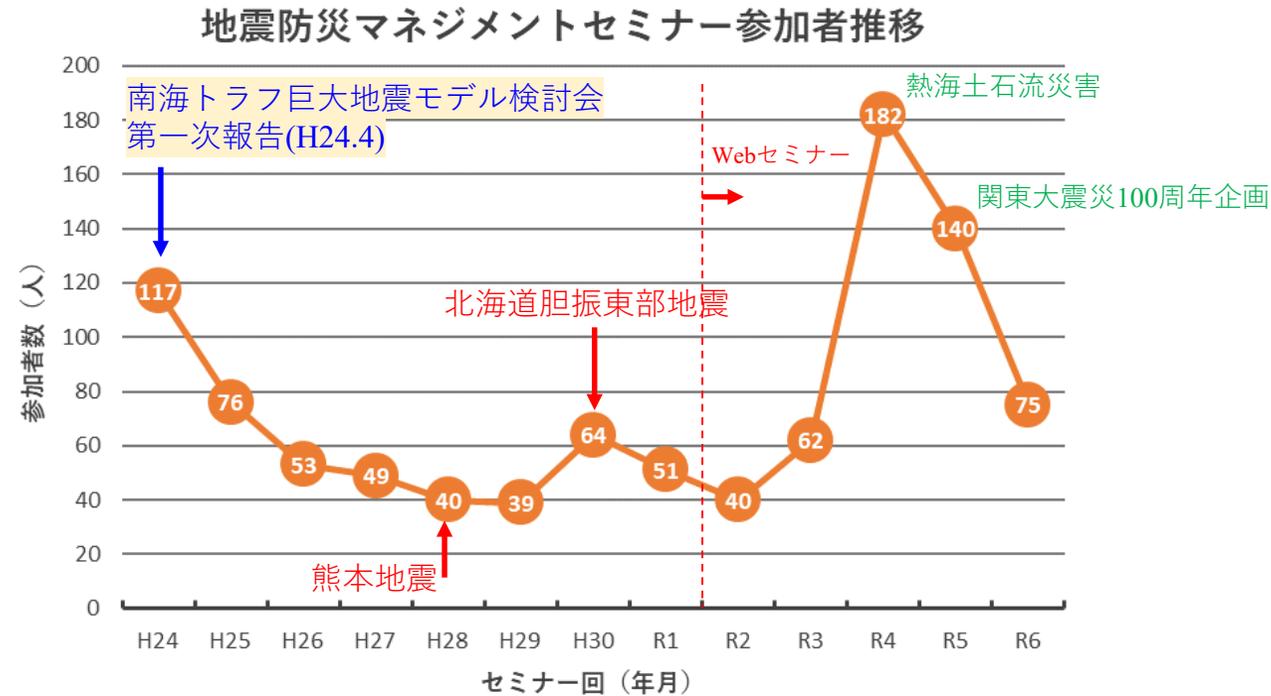
- 吉田 望先生（関東学院大学）による地盤の地震応答解析に特化した実務者向けの講習会
- 平成30年度より当小委員会が担当（夏あるいは秋）
- 令和5年度は演習時間を取るため期間を1.5日として実施





- 平成11年2月の第1回以降，ほぼ毎年継続的に実施
- 令和4年度以降は，現地参加に加えオンラインも併用で実施

開催回	開催年月	テーマ
13	H25. 12	南海トラフの巨大地震に向けた津波への備えと課題
14	H26. 12	首都直下地震・想定される被害と防災・減災への取り組み
15	H28. 1	地震防災と先端技術
16	H28. 11	熊本地震で見えてきた課題と今後の展望
17	H30. 1	復興活動から考える減災・防災
18	H30. 11	大都市に潜む震災要因と求められる対策 - 液状化や津波に着目して
19	R1. 11	我が国の地震防災を支える高度解析技術— シミュレーション技術の最前線
20	R2. 10	複合災害に備える - 地震, 豪雨, 火山噴火などによる重畳災害に備えて - (オンライン開催)
21	R3. 11	首都圏直下地震及び南海トラフ巨大地震に備えた事前復興 — 東日本大震災から学び災害前から復興を検討する— (オンライン開催)
22	R4. 11	盛土規制法と防災対策 — 熱海の土石流災害の教訓から危険な盛土を強靱化する— (ハイブリッド開催)
23	R5. 5	関東大震災の教訓と迫りくる首都直下地震に備えた準備と対策— 関東大震災から100年、想定外と言わな いたための再検証— (ハイブリッド開催)
24	R6. 11	2024年能登半島地震における復旧・復興対策の最前線 — 能登半島地震の復旧・復興の現状と課題は何なのか? — (ハイブリッド開催)

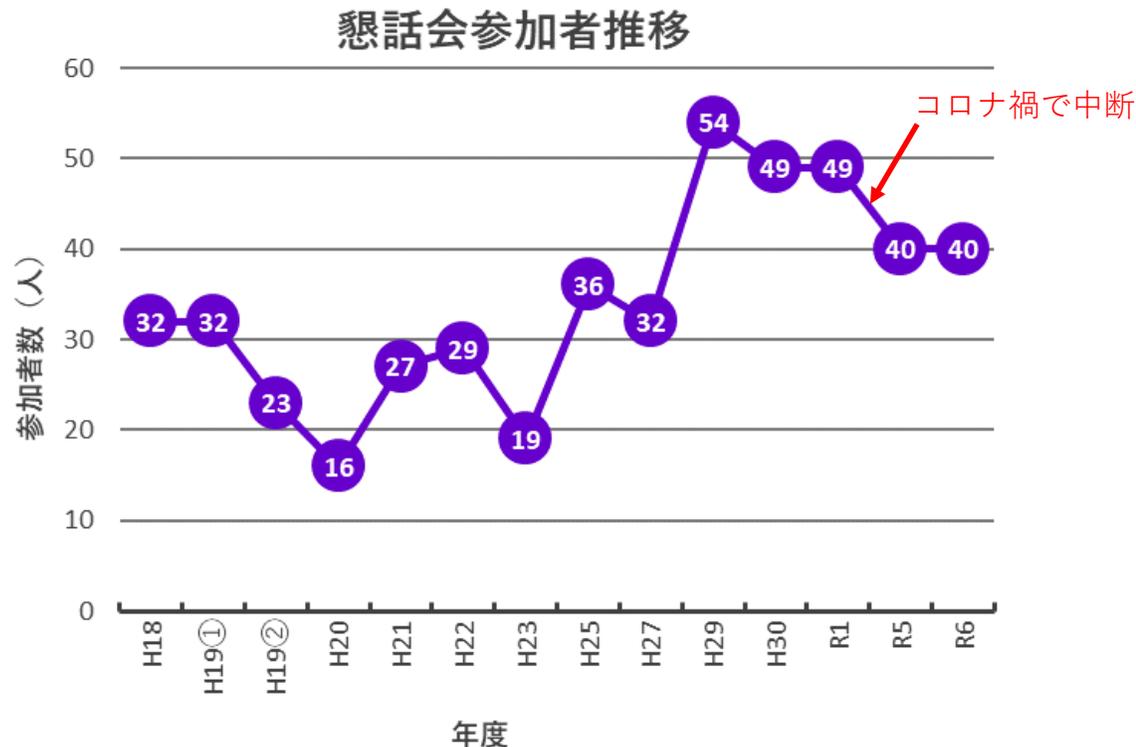


- 国（内閣府等）の動き，社会情勢を踏まえた内容で企画
- 参加者が多い年度もあるが，集客に苦戦している年度も多い
- オンライン開催により一定数の参加者を保持
- 令和6年度は関心の高い能登半島地震関連の企画だったが，参加者減（他団体の開催行事と競合か？）

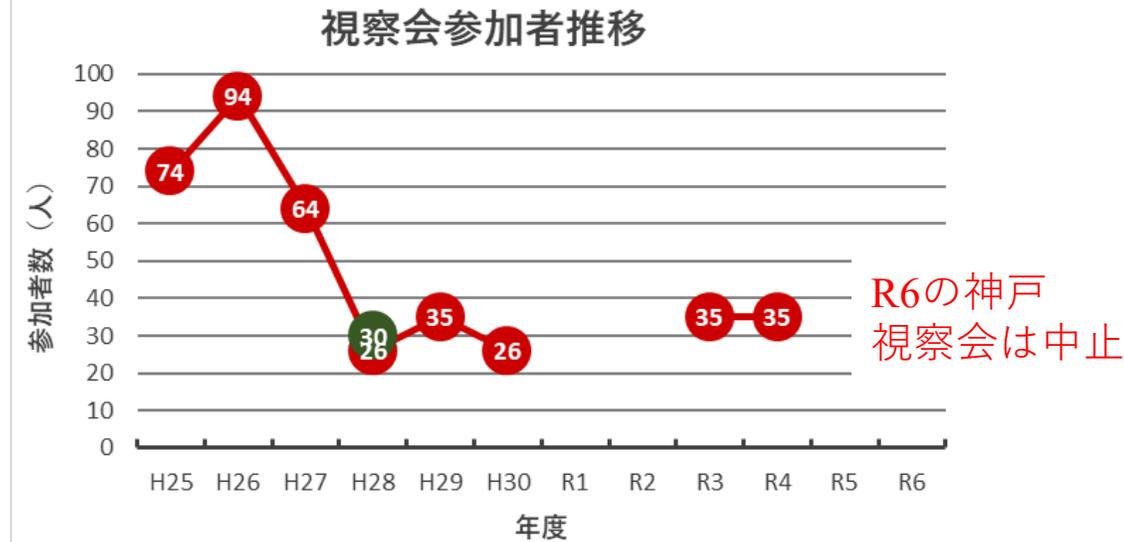


- 国内外の地震防災分野における著名な先生方に講師依頼
- 昔の苦労話など，平易で肩の凝らない講演内容
- 先生を囲う会議形式を原則とし，令和5年度に4年ぶりに再開

開催回	講師	開催年月	講演タイトル
1	George Gazetas 先生	H14. 5	杭の動的相互作用問題
2	伯野 元彦 先生	H14. 12	震害から学ぶ
3	吉見 吉昭 先生	H15. 4	地震地盤工学における設計マニュアルの功罪
4	田中 貞二 先生	H15. 6	常時微動から強震動へ ー研究の思い出話、こぼれ話ー
5	武田 寿一 博士	H15. 12	高層鉄筋コンクリート構造物の耐震設計 ー武田モデルの誕生ー
6	石原 研而 先生	H16. 4	地盤と基礎の被害とその考察
7	山田 善一 先生	H16. 8	地震工学・構造工学に関わって ー私の履歴書七十五年ー
8	田村 重四郎 先生	H17. 9	1995年兵庫県南部地震での第一次提言提案の頃
9	野上 仁昭 先生	H18. 11	米国での長年の研究生活を振り返る:人生様々
10	片山 恒雄 先生	H19. 9	国際交流 ー私の経験からー
11	星谷 勝 先生	H20. 2	リスクマネジメントにおける地震防災投資効果の評価技術
12	和泉 正哲 先生	H21. 1	将来を見据えて
13	土岐 憲三 先生	H21. 11	地震防災と文化遺産
14	篠塚 正宣 先生	H22. 10	都市インフラの地震災害リスク
15	亀田 弘行 先生	H23. 12	温故知新 ー地震防災技術の変遷からー
16	大町 達夫 先生	H25. 11	直下地震工学序説
17	濱田 政則 先生	H27. 12	液状化地盤の流動研究と実践
18	西村 昭彦 博士	H29. 6	構造物の耐震設計と補強(被害を鑑みて)
19	岩楯 徹広 先生	H30. 6	温故知新「私の研究・教育人生」
20	家村 浩和 先生	R1. 11	免震制振技術を応用した長大橋の耐震補強
21	高田 至郎 先生	R6. 2	「ライフライン防災」に取り組んだ60年
22	藤野 陽三 先生	R7. 2	「Preparing for the Unexpected」



- 最近は概ね40名～50名程度で推移
- 平成29年以降は，本部行事として実施（参加無料）
- 懇話会后，講師を交えた歓談の場も設けている（参加は任意）



- 震災学習とともに、復旧状況を現地で直接見て、現地の雰囲気を感じてもらう場を提供
- 平成17年度より神戸、平成24年度より東北、平成29～30年度は熊本の地震被災地を巡った
- 参加者は概ね30～40名で推移
- 令和3～4年度は、復旧状況に関するWebセミナーを開催
- 令和6年度は、参加人数が少なく神戸の視察会を中止とした

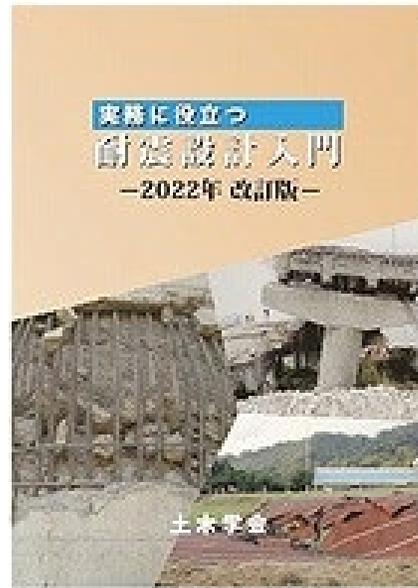


- 研究小委員会（令和3年度終了）の成果に関わる技術普及
- 令和4年度より，WG4を立ち上げて活動
 - ・ 令和6年10月，Webにてセミナー開催（参加者52名）
 - ・ 講習会終了時点の書籍販売数582部（売上目標564部をクリアー）
 - ・ 土木構造物共通示方書2023版の性能評価(7章7.3節)への反映も含めV&Vに関する対応が進展
 - ・ 本講習会は，令和6年度で終了
 - ・ 令和7年度は，V&Vガイドラインの英訳版作成に向け活動予定

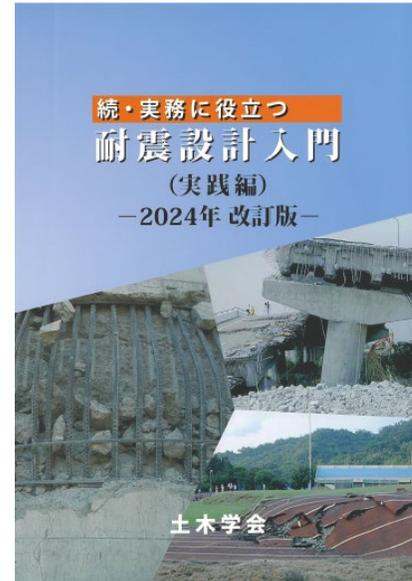


耐震設計入門セミナーのテキストを出版

- ・ 基礎編（平成22年度～）：累計販売 **3,651部**
令和4年7月に改訂版を出版
- ・ 実践編（平成26年度～）：累計販売 **1,694部**
令和6年11月改訂版を出版（初版**345部**販売）



基礎編用：定価¥3,370（会員価格）



実践編用：定価¥4,460（会員価格）



ご清聴ありがとうございました